

コアモデルとしての年間指導計画作成手順と作成事例

Annual instruction plan creation procedure and annual instruction as a core model

田中 敏明

Toshiaki Tanaka

指導計画作成の現状と課題

保育は指導計画に基づいて行われる。そのため、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された3つの資質・能力と5領域のねらい及び内容、幼児期の終わりまでに育てておきたい10の姿を育て、幼児の発達に沿った系統性や発展性のある保育であるための条件の一つが、幼児の発達や興味に沿った活動経験を通して時々のねらいが達成できる指導計画が立てられ、それに基づいて保育が展開されることである。田中（2019）¹⁾は、年間指導計画が備えるべき条件として、「①ねらいと内容が領域別に示されていること、②ねらいはそれぞれの年齢において育ててほしい事項、内容はねらいが達成された具体的な姿として具体的に示されていること、③ねらいと内容が対応して示されていること、④ねらいと内容が幼児の発達に対応したものであること、⑤園生活を通して、及び各年齢で育てるべきことのすべてがねらいとして示されていること、⑥年齢及び期別に示されたねらいと内容に連続性と発展性があること、⑦ねらいと内容が日々の保育と対応していること、⑧示されたねらいに極端な偏りがなく、全体としてバランスがとれていること、⑨ねらいと内容は、保育期間、保育時間の中で確実に達成できる範囲に限定されていること」という9つの項目を挙げている。幼稚園、保育所、認定こども園では、このような条件をふまえたうえで、園の実情に応じた指導計画を作成する必要がある。

幼稚園教育要領（2017）²⁾では、「幼稚園においては、幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、それぞれの幼稚園の教育課程に基づき、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行わなければならない¹⁾」としたうえで、指導計画の作成上の基本的事項として、「具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより活動が選択・展開されるようにすること²⁾」をあげている。さらに、指導計画の作成上の留意事項として、「長期的に発達を見通した年、学期、月などにわたる長期の指導計画やこれとの関連を保ちながらより具体的な幼児の生活に即した週、日などの短期の指導計画を作成すること²⁾」などをあげ、「幼児が主体的活動を展開し楽しく活動できるような指導計画とすること²⁾」

を強調している。しかしながら、ねらいと内容の違い、具体的なねらいと内容とはどのようなものなのか、長期の計画と短期の指導計画とではねらいや内容を書き分ける必要があるのか、幼児の発達をどのように把握し計画に反映させるのかについては明確に説明されていない。

保育所保育指針解説 (2018)³⁾ には、全体的な指導計画作成の手順が示されているものの、「保育所保育に基本について職員間の共通理解を図る³⁾」、「子どもの発達過程を長期的に見通し、(中略)それぞれの時期にふさわしい具体的なねらいと内容を、一貫性をもって構成する³⁾」などの記述にとどまり、「具体的なねらいと内容の例示や環境構成、保育者の援助等」とはどのようなものかについての記述はない。

指導計画のねらいや内容、具体的な作成基準がないため、作成される指導計画に問題点や課題が生じることがある。田中・金丸・永淵 (2012)⁴⁾ は、多くの園が指導計画を作成する際のモデルとしている保育雑誌の指導計画を分析すると、各雑誌に共通して、ねらいと内容が区別されていない、上の年齢のねらいや内容が下の年齢のねらいや内容よりも発達のレベルが低いものが多く見かけられるなどねらいや内容が幼児の発達に対応していない、幼稚園教育要領、保育所保育指針のねらいがそのまま書かれているなどねらいや内容に具体性がない、ねらいがないまま内容だけが書かれているものが多くねらいと内容が対応していない、各年齢で1回だけ登場するねらいがほとんどでありねらいや内容に連続性や発展性がない、人間関係領域のねらいが圧倒的に多く言語領域のねらいがほとんどないなど領域間のバランスが取れていない、どの園でも日々取り組んでいる活動が計画に反映されていないなどの問題点を指摘している。田中・石川 (2018)⁵⁾ は、保育雑誌の年間指導計画のうち表現領域に焦点を当てて分析し、「感性の育ち」に関するねらいや内容がほとんどないなど、同一領域の中でもねらいや内容の偏りが大きいという結果を示している。また、2017年に改訂された幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育要領では、教育・保育において育みたい資質として「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」が、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿として、「健康な心と体」、「自立心」、「協同性」、「道徳性、規範意識の芽生え」、「思考力の芽生え」など10の姿が示されたが、田中・屏賀・井手・高木 (2018)⁶⁾ によれば、保育雑誌の年間指導計画を分析すると、ねらいや内容が「学びに向かう力、人間性等」に偏り、「知識及び技能の基礎」に関わる記載はほとんどなく、古野・田中 (2021)⁷⁾ によれば、10の姿から見ても「思考力の芽生え」、「社会生活との関わり」、「道徳性、規範意識の芽生え」、「思考力の芽生え」、「言葉による伝えあい」や「豊かな感性と表現」の感性に関するねらいや内容がほとんど見られないなど、領域間の偏りが大きい。

しかしながら、田中・金丸・永淵 (2012)⁴⁾ や田中・屏賀・井手・高木 (2018)⁶⁾ が指摘するように、保育雑誌の年間指導計画をはじめとして、現在作られている指導計画の多くがこれらの条件を満たしていないのが現実である。この理由として、指導計画が満たすべき諸条件が指導計画作成者に浸透していないことと共に、指導計画作成の手順が確立されていない事が挙げられる。指導計画は各園のねらいや実情、子どもの実態に沿って作成されるものであることはもちろんであるが、満たすべき諸条件をふまえた上で、しかるべき手順に沿って作成される必要がある。ここでは、今回

作成に取り組んだ4つの園の作成の手順と4園の実情を踏まえて作成された5歳児の年間指導計画を1つのケースとして紹介する。

年間指導計画の作成の手順

熊本市内の同一学校法人に所属する4つの幼保連携型認定こども園の園長、主任、3歳児以上クラスの担任保育教諭と共同で、2020年度の年少3歳児クラス、年中4歳児クラス、年長5歳児クラスの年間指導計画を作成した。作成は、職員の協議に基づいて共通理解した次の手順で行った。

- ①年間指導計画を構成する項目の決定
- ②ねらい、内容、経験してほしい幼児の活動、環境構成、保育者の援助の理解
- ③前年度の年間指導計画の分析
- ④園のねらいの決定
- ⑤それぞれの年齢の幼児に共通する姿の把握
- ⑥学年別のねらいの決定
- ⑦年間指導計画の作成
- ⑧年間指導計画に基づいた月案、週案、日案の作成と保育の実践
- ⑨作成した年間指導計画案の分析と評価、改善

手順に沿った年間指導計画の作成

3歳年少クラスから5歳年長クラスまでの年間指導計画作成に着手した。

以下、手順に沿って年間指導計画を作成した取り組みの概要を説明する。

年間指導計画を構成する項目の決定

年間指導計画を構成する項目は、ねらい、内容、経験してほしい活動、環境構成、保育者の援助、保育行事、保護者との連携とした。

ねらいと内容の理解

ねらいと内容とはどのようなものかについて協議し、共通理解をはかった。その結果、ねらいは育ってほしい事項、内容はねらいが達成された幼児の具体的な姿であることを共通理解し、ねらいには、園のねらい、各学年のねらい、月のねらい、週のねらいと具体化していくこと、ねらいと内容を対応させて領域別に示すことを確認した。

前年度の年間指導計画の分析

2019年度の3歳年少クラスから5歳年長クラスまでの年間指導計画を、前述の指導計画が備えるべき9つの条件ごとに分析した。その結果、次のような課題や改善点が明らかになった。

①ねらいと内容の領域別表示

問題点：ねらいと内容が領域区分されていない。例えば、ねらいと内容に、「体を動かす活動に親し

み」(健康)、「友だちとルールを守りながら楽しく活動する」(人間関係)など複数の領域にまたがるものがある。

改善点：ねらいと内容に対応させて領域別に表示する。複数の領域にまたがるねらいや内容は分けて表示する。

②ねらいと内容の具体性

問題点：ねらいと内容の違いが明確でない。ねらいに、幼稚園教育要領に示されているねらいや内容レベルの抽象的な表現になっているものがある。具体性のレベルを統一する必要がある。内容で、「〇〇遊びをする」など、活動が書かれているものがある。

改善点：田中(2014)⁸⁾のねらいと内容のモデルを参照して、ねらいと内容の違いを理解し、書き分ける。内容はねらいが達成された具体的な姿として具体的に書く。

③ねらいと内容の対応

問題点：ねらいがなく内容だけが書かれているもの、ねらいだけがあり内容がないものがある。

改善点：ねらいと内容に対応させて書く。1つのねらいに対応する内容が2つ以上あることも可とする。

④ねらい及び内容の年齢との対応

問題点：年齢に対応しないねらいや内容がある。

改善点：田中(2014)⁸⁾の「幼稚園保育所 指導計画作成と実践のためのねらいと内容集」などを参考に、ねらいを子どもの年齢・発達の姿と対応させる。

⑤日々の保育とねらい及び内容との対応

問題点：日々子どもが経験する活動が、年間指導計画のねらいとして設定されていないものがある。

改善点：子どもが経験する全ての活動のねらいと内容を年間指導計画に記載する。

⑥ねらい及び内容の連続性と発展性

問題点：年間1回しか登場せず、連続性に欠けるねらいや内容がかなりある。ねらいや内容が抽象的で、同じようなねらいが各年齢に登場する。年長児のねらいが年少児あるいは年中児のねらいよりも発達の低いものがある。

改善点：ねらいを、学年や期をまたいで長期にわたって達成するねらいと特定の期に達成するねらいに区別し、長期にわたって達成するねらいは該当する期に必ず記載し、発達をふまえて具体的に記述する。

⑦ねらいと内容の領域間の均等性

問題点：3学年全体でみると、領域「人間関係」が64項目ある一方、領域「言葉」は9項目にとどまり、領域間で偏りが見られる。「友達とのかかわり」に関するものは40項目ある一方で、「聞く・話す・伝えあう」に関するねらいは全く書かれていない。

改善点：特定のねらいだけに目を向けるのではなく、達成すべきねらいはすべて記載することによってねらいと内容の領域間の数のバランスをとる。

園のねらいの決定

幼稚園教育要領等に記載されている各領域のねらいを基にして、必要な事項を追加した園のねらいを設定した（表1）。表1の中の下線部は、幼稚園教育要領等のねらいに、園独自で追加した事項である。

表1 園のねらい

【健康】 (1) <u>安定感をもって</u>、伸び伸びと意欲的に活動に取り組む。 (2) 様々な活動で体を動かすことを楽しみ、<u>難しい事、出来ないことに挑戦する。</u> (3) 健康、安全な生活に必要な<u>清潔、衣服の着脱、食事、排泄、病気の予防、安全行動などの習慣や態度</u>、行動を身に付ける。 (4) 園における生活の仕方を知り、<u>自分たちで健康で安全な生活の場を整えながら、見通しをもって行動する。</u>
【人間関係】 (1) 自分で考えて行動し、できることは自分でしようとする。 (2) 自分の思いを伝え、相手の思いや良さがわかり、先生や友達、高齢者、地域の人と一緒に活動する楽しさを味わう。 (3) <u>共通の目的を見だし、工夫したり、協力したり、役割を分担して物事をやり遂げようとする。</u> (4) 相手に対する思いやりや<u>感謝の気持ちを持つ。</u> (5) 決まりの大切さや<u>しなければいけないこと、してよいことやしてはいけないことがあることが分かる。</u>
【環境】 (1) 自然に興味関心を持ち、自然の<u>変化や大きさ</u>、美しさ、不思議さなどに気付く。 (2) 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする。 (3) 生活の中で、様々な物や出来事に触れ、性質や<u>特徴に</u>興味や関心をもち、遊びに取り入れたり、考えたり試したり発見したりする。 (4) 国や地域の伝統や文化、言葉、国旗などに興味を持ち、<u>行事などに喜んで参加する。</u> (5) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。
【言葉】 (1) 保育者や友達と話すことを楽しみ、思いを言葉で表現し、人の話を注意して聞こうとする。 (2) 生活の中で必要な言葉が分かり、いろいろな体験を通じて言葉を豊かにする。 (3) 絵本や物語などに親しみ、イメージを広げ、<u>創造する楽しさを味わう。</u>

(4) 文字や標識に関心を持ち、文字などを伝う楽しさ、伝える楽しさを味わう。

【表現】

(1) 生活の中で様々な物に触れ、感性を豊かにし、感動の気持ちをもつ。

(2) 考えたこと、感じたこと、感動したことを伝えあったり、自分なりの方法で表現しようとする。

(3) 体で表現する、歌う、楽器の音を出す、描く、作る、演じるなど様々な表現を楽しみ、工夫して表現しようとする。

(4) いろいろな人の表現に興味を持ち、その特徴や良さを感じ取りながら、一緒に表現する楽しさがわかる。

それぞれの年齢の幼児に共通する姿の把握

それぞれの年齢の幼児に共通する姿として、田中（2000）の「幼稚園教育要領と保育所保育指針にそってみる子どもの園生活と成長の姿」や、田中（2014）の「幼稚園保育所 指導計画作成と実践のためのねらいと内容集」など、幼児の年齢別発達を示す資料と、年間指導計画の作成に取り組んだ幼保連携型認定こども園4園の過去3年間の保育記録に記載された幼児の姿を対照させながら、4園の幼児に共通する姿を把握した。

学年別のねらい及び年間指導計画のねらいと内容の決定

園のねらいを具体化した学年別のねらいを決定した。

さらに、学年別のねらいを基本として年間指導計画を作成した。各学年とも1年を4つの期に分け（Ⅰ期：4～5月、Ⅱ期：6月～9月、Ⅲ期：10月～12月、Ⅳ期：1月～3月）、各期に期別のねらいと内容、経験してほしい活動、環境構成、保育行事を記載した。学年ねらいの中からそれぞれの期にあてあまるものを期のねらいとし、それぞれのねらいごとに、そのねらいが達成された具体的な姿を子どもの発達側面から記述する内容を対提示した。ここで、期に示されたねらいは暫定的なものであり、幼児の実態に応じて毎年見直していく必要があること、短期の指導計画作成においては、期のねらいや内容をふまえながらも、幼児の実態に即して修正していく必要があることを確認した。環境構成は、一つ一つの経験してほしい活動を念頭において、①ねらいが達成できる、②子どもの主体的活動を促す、③子どもの活動が楽しく、充実したものになるという3つの視点から吟味し、活動の場、活用する自然物、用意する素材や遊具、用具とその保管場所等を記述した。

紙面の都合で、作成した年間指導計画の中から、領域「環境」の学年のねらい、期別のねらいと内容の部分を抜粋して表2に示す。

表2 学年のねらい、期別のねらいと内容（領域「環境」）

学 年 の ね ら い	【健康】【人間関係】【言葉】【表現】は略			
	【環境】			
	① 生き物や植物、気象などに疑問を持ち、尋ねたり、自分で調べてみようとする。			
	② いろいろな素材や道具の特徴に気付き、その特徴を生かして工夫して使う。			
	③ 自然の変化に興味を持ち、それぞれの季節の特徴に気付く。			
	④ 目的に合わせて適切な事物を集めたり、事物を工夫して使う。			
	⑤ 生き物や植物は生きていることが分かり、大切にお世話しようとする。			
	⑥ 物や状況に合わせた大切な使い方がわかる。			
	⑦ 身近な出来事に興味を持ち、友達や先生と話し合ったりする。			
	⑧ 数や量が正しく使え、数や量を活用して遊びを楽しむ。			
	⑨ 曜日や時間がわかり、時間に合わせた行動ができる。			
⑩ 季節の行事や伝統行事が分かり、行事の内容を考えたり製作したりする。				
⑪ 国の名前や国旗、特徴に興味を持ち、地球儀や地図で場所を探そうとする。				
期	I 期（4 月～5 月）	Ⅱ 期（6 月～8 月）	Ⅲ 期（9 月～12 月）	Ⅳ 期（1 月～3 月）
ね ら い	「環境」	【環境】	【環境】	【環境】
	1. 春の自然に興味を持ち、取り入れて遊ぶ	1. 梅雨時の動植物に関心を持ち、その特徴などに気付く	1. 夏から秋への自然の変化に関心を持ち、変化の特徴に気付く	1. 身近な冬の事象に気付き、工夫して冬らしい遊びを作ろうとする
	2. 身近な動植物や自然の変化に興味を持ち、季節の特徴に気付く	2. 身近な事象や動植物に関わり、特徴や命の大切さに気付く	2. 秋の自然の不思議さ、面白さ、美しさを感じ取る	2. 物や生き物の性質を考えながら適切に扱う
	3. 時間を意識して行動しようとする	3. 目的に合った適切な事物を集め、上手に活用して遊びを発展させる	3. 冬への季節の変化や年末の行事に関心を持ち、遊びに取り入れる	3. お正月や節分の行事の意味が分かり、行事の活動を考えようとする
		4. 数や量に関心を持ち、生活の中で生かそうとする（Ⅲ期まで）	4. 数や量に関心を持ち、生活の中で生かそうとする	4. 春の自然を感じたり、園生活での動植物のお世話を振り返ったりして、自然への愛着を深める
		5. いろいろな国の国旗や文化に興味を持つ	5. 時間を意識して行動しようとする	

内 容	【環境】 1. 見つけた自然物を制作などの遊びに取り入れる 2. 春の自然に触れ、虫や花を見つけて、飼育したりお世話をしようとする。 3. 自然の様子や身近な動植物に興味を持ち、調べたり、発見を楽しんだり育てたりする 4. 何時までに終わ	【環境】 1. 生き物や植物を育て発見を楽しみ、気づいたこと、分からないことを調べようとする 2. どうしたら良いか考えながら身近な動植物の世話をする 3. 生き物や植物には命があることを感じ取り、調べたり収穫したりして動植物の成長を喜ぶ 4. 目的を持って必要	【環境】 1. 虫の声や、木々の色の変化など秋の特徴に気付く 2. 秋の紅葉や自然物の変化に築き、調べたり遊びに取り入れたりする 3. 植物の変化の不思議さに気付く、調べたり、遊びを工夫したりする 4. 年末年始の行事	【環境】 1. 冬の自然現象で気づいたこと不思議と感じたことを尋ねたり調べたりして分かろうとする 2. 遊具や用具、飼育した生き物に感謝の気持ちを持ち、次に使う人のため整理したり、きれいにしたりする 3. お正月や節分の行事の意味に興
	る、何時から始まるなど、時間を意識して行動しようとする	な素材を集め、工夫して使おうとする 5. 素材の特徴を生かしながら試したり工夫したりする 6. 遊びや片付け、当番活動で、数を数えたり、必要に応じて分けたり配ったりできる 7. いろいろな国の場所、国旗、服装、食事などに興味を持ち、地図を見たり調べたりする	に関心を持ち、自分たちの遊びに取り入れようとする 5. 数や量、を意識したり、素材の特徴を生かして活動を発展させる 6. 決められた時間の中で食事、片付けなどをしなければならないことが分かり、時間を意識して行動する	味を持ち、意味を考えながら遊びに取り組む 4. 冬から春への気候や動植物の変化の不思議さや美しさに気付く 5. 飼育している生き物のお世話を、先生や下級生に頼んだりして、大切に感じる
経験してほしい活動、環境構成、保育者の援助、保育行事、保護者との連携は略				

作成した年間指導計画案の分析と評価・改善

作成した年間指導計画を、ねらいと内容の具体性、ねらいと内容の対応、ねらい及び内容の年齢との対応、ねらい及び内容の連続性と発展性、日々の保育との対応、ねらいと内容の領域間の均等性、保育期間、保育時間の中での確実な達成という観点から見直すとともに、実際に保育を担当する各学年の担任保育者から意見を求め、問題点を修正した。作成した保育計画に対する他園の職員や専門家の意見を聞くとともに、この年間計画を用いた保育実践を通して妥当性を検証し、さらなる改善に努めているところである。また、この年間指導計画に基づいた月案、週日案を作成している。

なお、田中（2021）⁹⁾ が作成した年間指導計画は researchmap で公開しており、ダウンロードが可能である。

今後の課題

年間指導計画に基づいて月案や週日案が作られることから、この年間指導計画を短期の指導計画にどうつなげていくかについて検討し、年間指導計画と整合性の取れた月案や週日案を作成していきたい。さらに、この計画に沿って保育を実践し、幼児の実態や実践者の意見に基づく再検討も必要である。

Society5.0という新しい時代の到来を目前に控え、いじめや不登校といった深刻な問題も解決の兆しが見えない中で、新しい時代に求められる資質や能力とはどのようなものか、子どもの抱える問題を解決するために幼児期に何を育てておかなければならないかという視点から、絶えず見直しを図っていきたい。

引用文献

- 1) 田中敏明. (2019). 保育課程・教育課程と指導計画. 田中敏明 (編著). コンパス保育原理－未来を生きる子どもの保育－第5章 (pp. 61-72): 建帛社.
- 2) 文部科学省. (2017). 幼稚園教育要領. (pp. 7-8).
- 3) 厚生労働省. (2018). 保育所保育指針. (p. 41).
- 4) 田中敏明・金丸智美・永渕美香. (2012). 保育雑誌に掲載される年間指導計画モデルの問題点Ⅱ：問題点を改善したモデル提示. 福岡教育大学教育実践センター教育実践研究, 20, (pp. 155-161).
- 5) 田中敏明・石川ますみ. (2018). 保育雑誌に掲載される年間指導計画の現状と課題：表現領域を中心に. 九州女子大学紀要, 54-2, (pp. 129-140).
- 6) 田中敏明・屏賀一男・井手裕子・高木富士男. (2018). 保育雑誌に掲載される年間指導計画の分析：改訂された幼稚園教育要領等の「資質・能力」及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の視点から. 九州女子大学紀要, 55-1, (pp. 73-86).

- 7) 古野愛子・田中敏明. (2021). 教育要領・保育指針と年間指導計画の整合性. 日本保育学会第74回大会発表論文集, (P-D-1-6).
- 8) 田中敏明. (2014). 幼稚園保育所 指導計画作成と実践のためのねらいと内容集: 北大路書房.
- 9) 田中敏明. (2021). 年間指導計画 (3歳～5歳). researchmap, MISC. 2021.

参考文献

- 千葉武夫・那須信樹 (編). (2019) 教育・保育カリキュラム論: 中央法規.
- 田中敏明 (編著). (2000). 幼稚園教育要領と保育所保育指針にそってみる子どもの園生活と成長の姿: ミネルヴァ書房.
- 内閣府. *Society5.0とは*. <https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0.pdf> (2021年10月1日16時35分)